

1

子どもの肌と 大人の肌はどう違うの？

子どもの皮膚は薄い

皮膚の厚さというのは大人で2～3mmですが、子どもはその半分から3分の1しかないといわれています。子どもの皮膚って、とても薄いんですね。ですから、ゴシゴシこするなどの物理的刺激には弱く、傷つきやすいのです。

バリア機能も未熟

からだをおおっている皮膚は、ヒトのからだの「外側」と「内側」の境界にある大切なバリア。からだを守るはたらきがあるんです。皮膚の表面は、毛穴から分泌された皮脂（あぶら）と汗が混じりあって、天然のベール（皮脂膜）でコーティングされています。それによって、皮膚を弱酸性に保ち、細菌やウイルス、アレルギーの原因となる物質の侵入を防いだり、ヒトのからだに欠かせない水分の蒸発を防いだりしています。しかし、子どもの皮膚では皮脂の分泌量が十分ではないため、バリア機能も未熟なんです。

子どもの皮膚は薄く、バリア機能も弱いため、大人では問題ない刺激であっても、子どもの皮膚ではトラブルの原因となってしまうことがあるんです。また成長期の半ばになり、からだが大人になってくると、今度は分泌される皮脂の量がどんどん増えてきて、この時期最も多い皮膚トラブルであるニキビの原因になってきます。

